

## 「種山ヶ原は今②1」

水不足で11月6日で急遽営業を止めました。今日も多くの方が訪れていますが、申し訳ありません。静かな星座の森です。スタッフが来年に備えて頑張っています。鹿やカモシカは牧草地で悠々と草を食んでいます。イノシシはミミズでも探しているのでしょうか、穴掘りに頑張っています。ユリの根だけは食べないで欲しいのですが。野芝は賢治の森と物見山周辺だけになってしまいました。牧草地が近い為、牧草の種が入り、笹が侵攻してきて大変です。頑張ってお守るしかない。



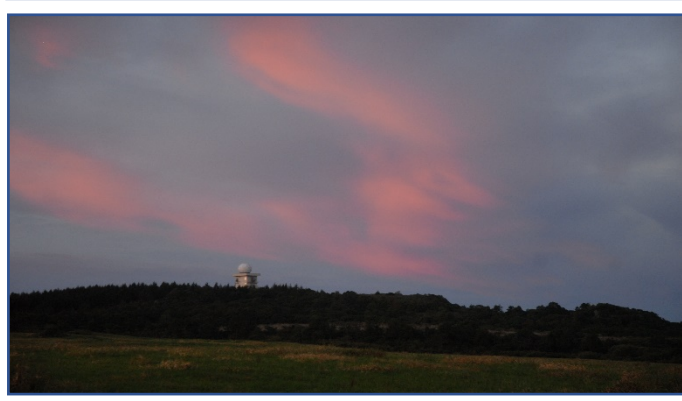
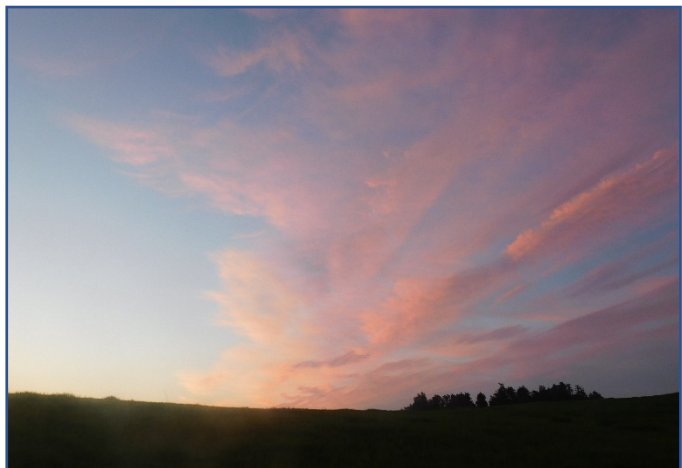
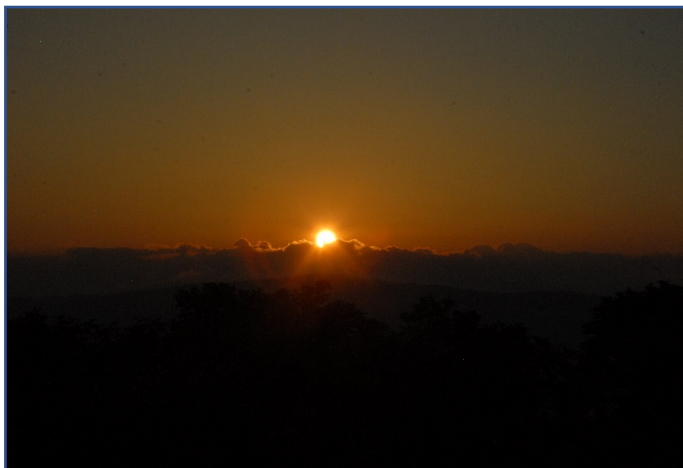
賢治の森



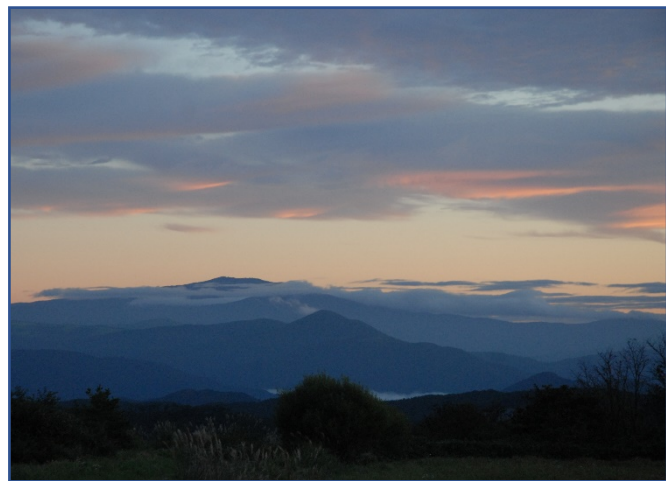
物見山 ㊤は落葉松の道



種山ヶ原の夜明け



放牧中の牛たち 3日後にそれぞれの家に帰って行きました。オーロラのような朝焼け  
早池峰山 雲海の北上平野



種山ヶ原からの岩手山



朝日射す種山ヶ原 須川岳（栗駒山）



## 「レンゲツツジを守る」取り組み

5年前の土手のツツジです。実際この土手に入ると、駐車場造成の時の木の根等の残骸があり、草刈りがとても大変でした。その為にツツジを刈ってしまうこともあり、また土壌が悪く枯れてしまい、このような現状でした。



そこで5年前から残骸の処理を進め、大分歩きやすくなり、よく見ると、100mほどの土手に、たくさんの幼木があることが分かりました。今、幼木のそばに支柱を立て、守ることに取り組んでいます。現在250本以上も支柱を立てています。又、2m位の笹に隠れて成長できずにいる幼木もあり、笹を刈り、太陽に陽をあててあげようと、今笹刈りに取り組んでもいます。しかし、豪雪の種山ヶ原ですので、五分ほど刈るなど、どうすれば幼木を守れるか試行錯誤しながら取り組んでいます。笹刈はあと80mほどですが、頑張って達成しようと思います。5年経てばツツジいっぱいの土手になることを夢見ながら。

平均年齢80歳のボランティアメンバーで年2回、後は数人で取り組んでいます。お世話すればこのようになるのです。来年在望です。



## 「種山ヶ原にオオカミがいたの？」 <米里のオオカミの話題>

実はいたと言うのです。オオカミに襲われて亡くなった方の石仏が今は使われなくなった山本川沿いの監視小屋の脇にあるのです。

### 千田佐一さんの根付がニホンオオカミと判明

米里字下大内沢の千田佐一さん宅に伝わる獣頭骨の一部がDNA分析の結果、ニホンオオカミのもの  
と判明しました。※玉里でも一つ確認されています。



和牛を飼育している佐一さんが、長年懇意にしていた愛宕の獣医師菊池さんの計らいで、岐阜大学石黒直隆教授に鑑定を依頼していただいたとのこと。根付として使われていたということは、山仕事の際のお守りだったのだと思います。米里にもオオカミが本当にいたとはびっくりです。五輪峠には、狼に一家が襲われたという言い伝えもあります。

### <狼のつく地名等>

- (1) 狼穴(おいのあな) 白山神社の白山堂東斜面にあるらしい。
- (2) 狼岩(おおかみいわ) 物見山北側に狼が住んでいたと言われている大岩があります。
- (3) 狼欠塚(おいのかけづか) 学間沢地内にある伊達と南部の藩境塚で、1号から3号まである

※狼森(おいのもり) 宮沢賢治作品に「狼森と笹森、盗森」があります。

### <狼に関わる風習>

昔、中屋敷地区の風習として、1月14日の晩に餅2切と煮干し2匹を、5月4日の晩には白いおにぎりを狼に供えていたと言います。子供たちは、「それを道端に置いたら絶対後ろを見るな」と言われ、道端に置くと「山の旦那さまあげまーす」と叫んで逃げて帰ってきたそうです。

それほど、狼への恐れがあり、その反面畏敬の念もあったのでしょうか。また、オオカミの絶滅によって食物連鎖が崩れ、農民が困ったこともあったようです。

### <三峯神社はオオカミを神のお使い(眷属)とする火防・盗難除け・ 悪疫除け等の守護神としての神社>

中郡地区には、向平当に明治36年に衣川の三峯神社から分霊勧請した三峯山があり、毎年旧暦3月19日に講中から3名の代参人を派遣し、ご祈祷を受け、御神符を拝載して帰りました。そして、その夜講中一同が参集し、直会を開き、御神符の分配と代参人の引継ぎを行なわれるという風習があり、今なお続いています。

狼は神格化され、善人を守り、悪人を罰する神として、また、災害から守る神とし

て祀られています。米里には三峰山が向平当のほか、太田、上大内沢、中屋敷（お不動さん）、荒谷、下大内沢にあります。

### <何故ニホンオオカミは絶滅したの？>

ニホンオオカミ研究者・中沢智恵子さんの報告によると

「絶滅の原因は、イヌの病気に感染したこと、猟銃の発達による鹿などの獲物の減少、山林開発による生息地が狭められたこともあるという。そして、その反動として放牧している牛馬だけでなく、人も襲われるようになって、自治体はオオカミの駆除政策を進めました。」

### <捕獲者に報労金を支払う制度を実施>

この制度が、ニホンオオカミの絶滅に拍車がかかったものと思われます。

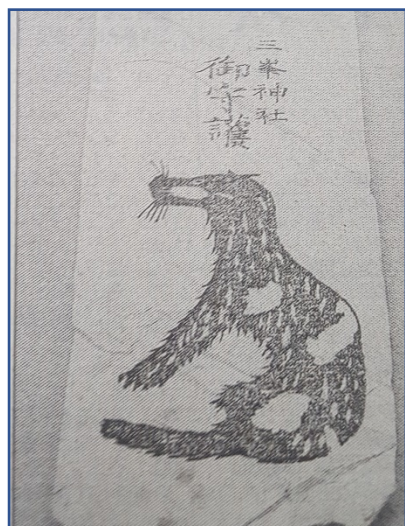
岩手県でも、明治6年「牛馬取締規則」が布達され、牛馬がオオカミの被害にあった時には県に届けるべきことが定められ、明治8年にはオオカミを捕獲した者へ手当金を支給することが布達されました。そして、明治8年は47匹、9年25匹、10年43匹、11年40匹、12年24匹が捕獲され、明治35年頃にはニホンオオカミはその姿を消してしまったようです。この制度も自然に廃止されたようです。

尚、**手当金制度**の内容は、

雌 8円 雄 7円 子 2円 +運搬費

※①貨幣価値は、大工の賃金等から換算すると、1円は現在の約2万円？〈「続値段の風俗史」(朝日新聞社)から〉

尚、千田佐一さんの根付はえさし郷土文化館に寄託されています。



衣川三峰神社の御神符

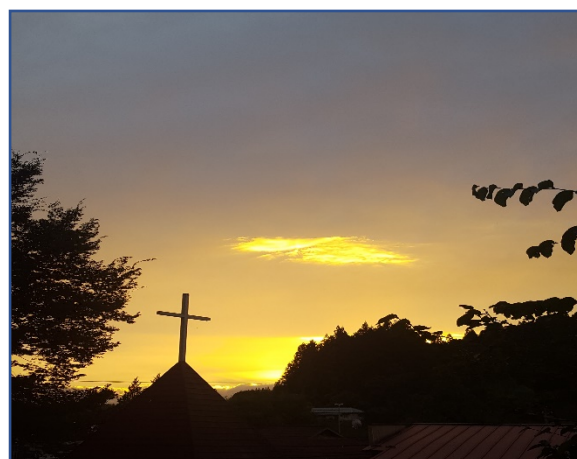
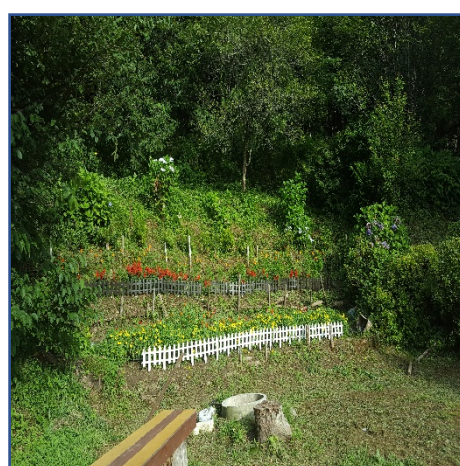


中郡地区の三峰神社

## 【人首の夕べの音風景】

「宮沢賢治も聴いたであろう人首カトリック教会の鐘(仏製のアンジェラスの鐘)の音が、夕方5時頃に今も人首の町に流れています。当時は200m程離れたハリストス教会(1933焼失)の鐘も同時になっていたという。」

夕方4時59分27秒にお寺の鐘が鳴り、30秒に教会のアンジェラスの鐘が鳴らされます。5時には地区センターのチャイムが流れます。これが人首の夕べの音の風景です。3人のシスターが去り、老朽化した教会が取り壊されました。その後鐘楼を地区民の手で修復し、明治38年(1905)から100年以上も鳴り続けています。管理者の中山昇幸さんと周辺の子供会、そして放課後スクールの子ども達も鳴らしていましたが、今は中山さんと私が助手として公園の管理や鐘鳴らしを続けています。



中山昇幸さんは毎日水やりをしています。④彩雲 ⑤鐘楼完成を祝う会 神父さんも来てくれました

